



皆さん、こんにちは。今日は被災地の大学として東北大学が取り組んでおります減災出前教育「結」プロジェクトについてご紹介させていただきたいと思います。

東日本大震災で多くの若い世代、19歳以下の方が命を落としました。それによって、その人たちの命だけではなく家族の大きな悲しみがありました。それに基づいて皆さんお一人お一人に減災意識を持っていただきたいと思ってこういう活動を始めています。

減災「結」プロジェクトでは、現在までに宮城県内で70校回らせていただきました。今日の会場の中にもどなたか、私の授業を受けてくださった方がいらっしゃるかもしれません。タイ、フィリピン、インドネシア、ハワイなど諸外国にも行かせていただいております。3部構成になっておりまして、座学、グループワーク、グループディスカッションの発表をしてもらうという構成になっています。

なかでも気を使っている点は、しっかりとしたサイエンスを皆さんに知っていただく、メカニズムを知っていただくということで、こういう材料を使ってやっております。このスライドを見ていただきますと、1896年の津波では牡鹿半島がしっかりと津波を止めていますが、東日本大震災では南からの波を止めることができず、大きな被害が出てしまったことがわかります。もちろん規模も大きく違いました。

私は授業の前後にアンケートを採らせていただいています。「いざ避難をするというときに、家族で避難に関する情報共有は必要ですか」という質問に対して、授業のあとは大きく「強く思う」が伸びています。「今日習ったことを家族とシェアしますか」という質問に対しては、やはり授業のあとは大きく伸びています。これは海外の事例ですが、海外はちょっと言葉の壁があつたりしますが、同じようにアンケートで「強く思う」という結果が伸びています。こういう活動を地道に続けていきたいと思います。そして、教える教育ではなく、皆さんに考えてもらう教育を今後展開していきたいと思います。減災・防災、そういう意識は自分の中で育てて育まないと身に付かないと思います。今から事例を見ていただきます。

(映像)

保田 どうもご清聴ありがとうございました。Thank you for your attention.